

治験センター NEWS

第4号 2008年1月1日 発行



あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

2003年に治験センターが設立されてから、早いもので5年が経過しました。院内のみなさん方にも「治験」はかなり浸透してきたように思います。

今回のテーマは「治験拠点病院について」です。



● 『ドラック・ラグ』という言葉をご存知ですか？

欧米では使える画期的な新薬が、日本では数年遅れでしか使えない、こうした現状を指した言葉です。海外では治せる病気が、国内では治せないとしたら、とても残念なことですよ。

● なぜ、ドラック・ラグが生じるの？

「新薬開発能力のある製薬企業は、米国・EUだけでなく日本にもあるのに、なぜ日本は遅れるの？」と疑問に思われる方もいらっしゃるでしょう。これには、世界同時に進行する国際共同治験が普及するなか、日本では欧米との間に①効果と副作用における人種差の問題や、②治験実施において言語や文化の違いがあり、同時には進まない原因になっているようです。

● 『治験の拠点病院』についてご存知ですか？

国内の治験を活性化するとともに、国際共同治験への参加を推進して、ドラック・ラグを解消するための国家プロジェクトが厚生労働省の音頭で今年スタートしました。このプロジェクトを医療現場で担うのが、治験の「中核病院（10施設）」・「拠点病院（30施設）」として国から指定された医療機関です。

● 虎の門病院は拠点病院に指定されたの？

全国で約30の医療機関が厳正な審査を経て厚生労働省から「拠点病院」に指定されました。実は、虎の門病院も、この治験の拠点病院に指定されました。

今まで、虎の門病院の本院と分院が協力して治験を推進してきましたが、今後こうした治験ネットワークを共済病院全体に広げて、国レベルでの治験活性化に参画していく予定です。引き続き、職員の皆様の治験へのご理解と、ご協力をよろしくお願いいたします。

治験事務局長 林昌洋

*皆様にとりまして良い年となりますように！

次回は、4月1日発行予定です。

問い合わせ

本院治験事務局 3430

CRC室 3420

分院治験事務局・CRC室 5317